

会 議 録

会議の名称	令和元年度 第1回西東京市健康づくり推進協議会
開催日時	令和2年2月12日（水） 午後1時30分から午後2時50分まで
開催場所	住吉会館ルピナス 2階 研修室
出席者	中澤会長、馬場委員、浅野委員、井出委員、伊集院委員、大安委員、富永委員、平野委員、村山委員、片白副会長
議 題	(1) 第2次健康づくり推進プランの進捗状況について (2) 生きる支援推進（自殺対策）計画について (3) その他
会議資料の名称	平成30年度 第1回西東京市健康づくり推進協議会 会議録（案） 資料1 西東京市健康づくり推進協議会条例 資料2 西東京市健康づくり推進協議会 委員名簿 資料3 西東京市市民参加手続きについて 資料4 西東京市健康づくり推進協議会傍聴要領 資料5 第2次西東京市健康づくり推進プラン 進捗状況 資料6 第2次西東京市健康づくり推進プラン 進捗一覧 資料7-1 西東京市生きる支援計画（概要版） 資料7-2 西東京市生きる支援計画（素案） 「健康」応援NEWS
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p>1 開会 会長・副会長の互選→中澤会長・片白副会長</p> <p>2 議題 (1) 西東京市健康づくり推進プラン後期計画の進捗状況について</p> <p style="padding-left: 40px;">事務局より配布資料の確認、資料5・6説明</p> <p>○会長 特定健診の受診率とがん検診の受診率との関係はどうなっているか。前にも一度お聞きしている。山梨県は、特定健診の受診率がとても高いということで、ちょうど、健康課に山梨大学の公衆衛生の山縣先生が来られているが、アドバイスをいただいたことはあるか。</p> <p>●事務局 山縣先生は先週いらっしゃって、振り返りをさせていただいた中でご意見をいただいた。当市の特性としては、先ほど事務局から説明した通り、人口が増えている。他のまちから西東京市に入られた方に対して、きちんと健診受診につなげるように、人口増加のまちの中では、アナウンスすべきだと伺った。情報は市として出しているのだろうが、きちんと相手に届く工夫が必要ではないかとアドバイスいただいた。特に特定健診やがん検診については、色々なツールを使っている情報発信が大事だと健康課でも検討しているが、1月1日号の市報と一緒にお配りした健康応援ニュースの中でも健診等の案内をさせていただいた。一番アドバイスとしていただいたのは、</p>	

新たにまちに来られた方にまずきちんと周知することに着目すべきだということである。

○委員

今説明のあった資料5の17ページの、特定健診指導実施率・指導者数推移において、要指導を受けた方がここに載っている数字であるが、要指導の人数はどのくらいか。どのくらい開きがあるのか知りたい。

●事務局

保健指導対象者については、平成29年は約1500人くらいであった。

○委員

実施率はかなり低いと分かった。

○委員

特定健康診査受診率の、母数はなにか。

●事務局

西東京市の特定健康診査については、各保険者が加入者に対して健診を実施することになっているので、40才以上の、西東京市の国民健康保険に加入の方が母数である。

○委員

それに基づいてこのがん検診の受診率も出しているのか。

●事務局

がん検診については、特定健診とは別に、がんごとに何歳以上の人を対象とすると決められているので、その母数に対して何人の方が受診されたかで出している。

○委員

前の議事録について、2ページ目に、事務局発言の3つ目で、そもそも西東京市は、東京都のどのくらいの位置にあるのか知りたい。自治体の中でも高いところと低いところがあってと書いてあるが、西東京市はどのくらいの位置であるのか。

●事務局

まず位置に関して言うと、16ページの特定健診受診率で、西東京市では受診率50%という大きな目標を掲げているが、今このような数字になっている。東京都からも一つの基準として50%を求められている。圏域5市の中では、平成29年度のデータでは、東京都の受診率が44.9%、市部全体で49.3%、近隣5市の北多摩北部では49.7%であった中、西東京市は48.5%だった。東京都よりは高いが、北多摩北部の中では大きな差が無いという状況である。

●事務局

補足であるが、特定健診のことでの質問だったが、同様に市民の方からも、西東京市はどのくらいのポジションか聞かれるところである。健康寿命との関係も色々な事業の中で聞かれることがある。きちんと情報が届くように健康課でも昨年の秋から、健康寿命については市のホームページにてグラフ等でお示しする取組をしている。それぞれ母数になるのは市民の皆様なので、まちの健康というキーワードで分かりやすくお示ししていきたい。

## (2) 生きる支援推進（自殺対策）計画について

事務局より資料説明

<資料7-1 西東京市生きる支援計画（概要版）>

○委員

20%減少させるという目標で、西東京市においては26人くらいということであったが、本市の自殺の現状を見ると、平成30年には26人で、すでに目標達成されているのではないか。

●事務局

平成30年の数値は、見づらくて申し訳ないが、28人である。おっしゃる通り、26人に限りなく近づいている。先ほど説明させていただいたが、あえて3年平均を取っている。どうしても、20万人の都市では、1人の増減でパーセンテージが大きく変動してしまうので、3年平均を取って、約26人を目指したいということをご理解いただきたい。

○委員

西東京市では、自殺者は若い方が多いのか、お年を召した方が多いのか。

●事務局

傾向としては、20歳未満の方の自殺者数が多い。なおかつ、40歳代の男性も多い傾向がある。資料7-2の12ページに根拠データがある。

●事務局

国からの緊急事態という認識で、自殺対策は国や東京都で取組が行われている。市が行う取組は東京都からの財政支援、予算の支援を受けていて、市として取組は国・東京都の動きを注視して行わないといけない。内容はセンシティブなものなので、取組はきちんと行っていくが、アナウンスの仕方が難しい。外部の委員が入っている委員会の中でも様々なご意見をいただいているが、行政を中心としてアウトリーチ、市の様々なところに出向いていく中で啓発を図ることが大切だという意見をいただいている。

○会長

どの問題もそうかもしれないが、この問題は特に健康課だけではなく色々なところ関わっているので大変な取組だと感じる。

●事務局

この計画の25ページ以降に関係部署からそれぞれの取組が書いてある。大きな柱としては、生きることを阻害する要因を減らす取組が25ページにあって、99事業ある。28ページには、生きることを促進する要因を増やす取組を45事業ピックアップしている。会長がおっしゃったとおり、このテーマは、健康課が中心にはなっているが、全庁的にこのような視点を持って市民の皆様に触れる事業の中でいかに取組をしていくかというのが大きなキーになってくる。アナウンスの難しさはあるが、全庁でチーム意識を持って行っていく事業だと思っている。こちらの協議会でも進捗の報告、合わせて庁内の対策会議でも進捗をきちんと管理していきたい。

(3) その他

○委員

来年度の予定について、決まっていることがあれば教えていただきたい。

●事務局

回数としては、来年度は1から2回開催したい。大きな事業の振り返りは、このくらいの時期にならないとできない。次年度については、冒頭に部長からも話があったが、皆様にご審議いただくこの計画と合わせて市の総合計画でも健康プログラムを掲げて事業が進んでいるのでそちらの進捗も見て案内したい。なるべく早めにご連絡させていただく。

3 閉会